

坂東眞理子著「子どもを『人』として育てることが『塾の品格』 - 子どもたちの夢の実現をサポートしてほしい」私塾界 2010年8月号、私塾界 2010年8月刊を読む

1. 20世紀モデルはもう古い

- (1) ここ10年あまりで、社会と女性の生き方に大きな変化が見られました。「普通の女性」が「普通に」働く世の中となり、20世紀モデルが通用しない時代になっています。
- (2) 子どもを持つ女性が働くのが当たり前の社会になりつつあるということです。そんな時代だからこそ、「どんな生き方をしたいのか？」を考え、夢に向かってどれだけ前進できるかが重要です。
- (3) 「夢なんて叶わない…」と希望を持たない人もいるかもしれません。私は、「多くの人に喜んでもらいたい」という気持ちで、諦めずにコツコツと本を書いてきました。そのおかげで、60歳にして初めてのベストセラーに恵まれたのです。
- (4) これまでの経験から申し上げて、人生では、夢見たことしか実現しないものです。この言葉を、21世紀を生きる子どもたちに贈りたいと思います。

2. 夢を実現させる「3つの力」

夢を実現させるには、「3つの力」が必要です。未来を担っていく子どもたちには、ぜひこの3つの力を身につけてほしいです。

- (1) 1つ目は、グローバルに通用する力です。

海外で活躍するために必要な最低限の条件は健康であること。

そして、次に大事なものは、日本についての豊富な知識です。日本の文化や社会の仕組みを学べば、他の国の人ではなく日本人だからできることが見えてきます。また、他人を差別をしないことを教えなければなりません。たとえ、差別は、した側に悪意がなくても、された側は傷つき、悔しい気持ちになります。

差別をしないためにも、子どもの頃から礼儀やマナーを身につけて、丁寧に人と接することを習慣づけてください。挨拶をしたり、目と目を合わせてニコッと笑おうと意識して行動していれば、やがて考えなくても自然に身体が動くようになります。

- (2) 2つ目は、コミュニケーション能力です。

はじめに、外見を整えましょう。外見にはメイクや服装だけではなく、態度や物腰も含まれます。似合う服を着て感じのいい振る舞いをする人に対しては、誰もが好意を持つもの。そして、

「あなたの話を聴きたい」という態度を見せるのが、コミュニケーションではとても大切です。高い能力というのは、上手に自己表現ができることではありません。相手の話にしっかりと耳を傾け、自分の意見を好意的に聴いてもらえる方法を考えてこそ、コミュニケーション能力は高まります。

(3)3つ目は、自分自身を大切にする力です。

それは、長所を伸ばし、夢に向かって進む努力を指します。

決して自分をおとしめるような行動はせず、小さな成功体験を積んで自分を好きになってもらいたいのです。

それを継続することが自信に繋がり、人間としての魅力を磨いてくれるのですから。

3. 塾の役割を再認識

(1)学びたい子どもと教えた先生との出逢いや連帯感を、塾の現場で目の当たりにすることがよくあります。

(2)本来であれば、子どもたちにそういった力を身につけさせるのは、公教育がすべきことです。しかし、公平さが求められる公教育の中では難しく、その役割は私塾や私学が担っています。

(3)そこで、塾の先生方をお願いしたいのは、ビジネスとして短期的なメリットばかりを得ようとするのではなく、子どもたちを「人」として育てるという視点を持つことです。その姿勢を貫くことが、「塾の品格」といえるのではないのでしょうか。

[コメント]

大ベストセラー「女性の品格」の著者で、私の尊敬する坂東先生からの学習塾の先生方への心暖まるメッセージ。「一般教養(リベラル・アーツ)」を最も身につけるべきは、学習塾の先生かもしれない。